



5年生のビブリオバトルが新聞報道

2月27日(月)に、特別審判員が、3年生を特別審判員として、桐生タイムス紙上で詳しく報道されました。



※ 記事の掲載については、桐生タイムス社の許可を得てあります。

夕刊 桐生タイムス (昭和21年2月8日第三種郵便物認可)

北小5年が「ビブリオバトル」

作家・如月かずささんも見守る

桐生市立北小学校「本」を決める知的書評「さんも来校し、バトル(小山校長)の5年合戦「ビブリオバトル」を見学したほか、本や生が2月27日、お気にを同小図書室で開いた。桐生市出身の児童、入りの1冊を紹介し合、投票で「チャンプ」文学作家の如月かずささん、バトルの前

半戦は6人ずつ6クループに分かれ、全員が小説から伝記、マンガまで図書館にある「自分のお薦め本」を紹介し合い、各グループごとにチャンプ本を決定。後半戦は代表者5人が如月さんの著作本でビブリオバトルを行い、クラス全員の投票でチャンプ本を決めた。チャンプ本には鈴木衣巴さんが紹介した「なのなのノダちゃんひみつ」(小峰書店)が選ばれた。

バトル終了後の講評で「プレゼンテーションのために台本をきちんと作っていてとても感心しました」と語った如月さん。「読者からお手紙をもらうことはありますが、きょうは直接、感想が聞けてうれしかった」

また、児童から事前の質問に答える形で本や読書について講話。「作家を目指したのは小学校高学年のころ。図書館で読んだ『スツコケ三人組』(那須正幹著)のシリーズや『ヤンソン』をきっかけに自分もこんな面白い話を書きたいと思った。『一番苦労するのは一人で作品を書かなくてはいけないところ。思いつくだが大変で、机の前に座っている時よりも散歩していたり、買い物に行ったり、寝起きにほんやりしているときに物語

を思いつきます」さらに編集者の修正点も赤ペンで書き込まれた原稿や挿絵のラフスケッチ、文章と挿絵を組んだ「ゲラ」も披露。貴重な資料に目を輝かせる子どもたちには「本を読むのは勉強ではなく、マンガやアニメと同じく面白いもの。楽しんで読んでください」と呼びかけていた。



児童文学作家の如月かずささんも見守る中、行われたビブリオバトル(北小図書室で)



いじめをなくして、笑顔のあふれる学校にしましょう!

3月のサンサン運動で「いじめ防止活動」

3月9日(木)・10日(金)の2日間、児童会が恒例のサンサン運動と一円玉募金を行いながら、手作りの幟旗を携えて、登校してくる児童達に、いじめの未然防止を呼び掛けました。

今回から、「いじめ防止活動～笑顔のあふれる学校にしましょう!～北小児童会」の幟旗が掲げられました。



ビブリオバトル(知的書評合戦)って何？

ビブリオバトル公式ウェブサイトによると、ビブリオバトルとは、誰でも（小学生から大人まで）開催できる“本の紹介コミュニケーションゲーム”で、「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに、日本全国に広がっているそうです。
また、＜ビブリオバトルの公式ルール＞は次のとおりで、たいへんシンプルなものですよ。

- ① 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- ② 順番に一人5分間で本を紹介する。
- ③ それぞれの発表の後に参加者全員で、その発表に関するディスカッションを2～3分行う。
- ④ 全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

これまで読書というと、読むこと（インプット）ばかりのイメージでしたが、読んで面白いと思ったところを話してみたり、質問に答えたりすること（アウトプット）は、喫緊の課題と言われている“児童生徒の読解力の向上”にも繋がっていくと思っています。

読後に「ああ面白かった」と思っている、では「どこがどんな風に面白かったのか」を聞き手（の興味を惹くよう）に話すとなると、面白かったところを要約する必要が生じ、ここで読解力が鍛えられるということです。

「自分がよく理解していないと他人に説明することはできない」、「他人に教えることで自分の理解が深まる」というのと同じです。

でも、基本的に“本の紹介コミュニケーションゲーム”ですから、あまり難しく考える必要はないと思います。その理由は、「楽しい思いをするとそのことを誰かに話したくなる」というごく普通の人間心理をゲーム化したものだからです。

本好きな人達に限らず、例えば映画好きな人達など、趣味をもっている人達はすべて、日常的にこれと似たようなことを行って楽しんでいると思います。

特学合同お別れ遠足中止 … 北小は動物園と遊園地へ

市内特別支援学級児童の今年度最後の交流学習として、3月2日（木）に行われることになっていた＜お別れ遠足＞が天候の影響を考慮して中止になりました。

しかし、地の利がある北小学校では、同日の2校時から25分休みにかけて、つくし学級の児童2名が桐生が岡動物園の見学を行い、楽しい一時を過ごしました。また、3月8日（水）には、待ちに待っていた桐生が岡遊園地への“プチ遠足”が実現し、通級している児童も一緒に、2時間あまり乗り物に乗って楽しく遊びました。



【ここでも記念撮影】



【2人揃って記念撮影】



【クジャクが羽を広げてくれました】



【慣れると快適なサイクルモノレール】



【意外と楽しいメルヘンカップ】



【アドベンチャーシップには5回乗りました】

